

被災地への想い

政府は日本が誇る技術として、POLY-GLU の事業を BBC と CNN で、途上国を主に、世界中に紹介しています。創業者の小田が阪神淡路大震災で被災した経験から始まり、スマトラ沖津波災害・バングラディッシュのサイクロン災害・ハイチ地震災害への救援で、ソマリア難民キャンプでの「常に被災者の側のつらい想いを抱いて」安全な水造りへと進化し続けた技術です。

其処には常に「生きる」と言う命の限界で彷徨人々がいました。

今では、BOP ビジネスの旗手と持て囃されていますが、BOP 層・貧困層にも、生るのがやっとな人々が暮らしているのです。

思いもよらない故郷熊本での大地震！

健気に頑張り続ける被災者の皆さんを誇りに思います。

私も 75 歳です、皆さんに負けない様に頑張っています。

能力も何も無い熊本生まれの小田が、世界中から愛され、必要とされる仕事にたどり着けたのは、熊本で生を受けたからです。熊本の海・山河で過ごした幼い頃の日々の経験が現在の礎になっています。1 時間余り坂道を自転車で通学したおかげで、アフリカや中東、南米の危険で過酷な旅も何一つ苦になりません。全て故郷が育んでくれた強い根性です。親不孝者のような私を、温かく見守って下さった故郷の皆さん。私を高く評価・用いて下さる政府の方々、多くの国民の皆様への恩返しをしなければなりません。特技である浄水技術でお返しする事を、故郷熊本の地震を機に思いました。

「綺麗ごとを言っている」と言われても平気です。

「本当に被災者の立場で考案したのか」構造・仕様書、価格を見て判断して下さい。

日本のために「何かしたい！」は本心です。

20016 年 5 月

小田兼利